



みなさまには、平素より京都銀行をお引き立ていただき、まことにありがとうございます。

さて、2018年度のわが国経済は、自然災害の影響による一時的な下押しもあり力強さに欠くものの、総じてみれば緩やかな回復基調をたどりました。この間、企業部門では、設備投資が堅調に推移したものの、中国経済の減速などの影響で年末頃から輸出・生産活動に弱めの動きが目立ちました。一方、個人消費は、雇用・所得環境の改善を背景に底固く推移したほか、インバウンド

消費も訪日外国人客の増加とともに順調に推移しました。期末にかけては、米中貿易摩擦の激化などによる世界経済減速への警戒感が高まる一方で、新たな時代の幕開けへの期待感が膨らむ中で、期を終えることとなりました。

金融機関を取り巻く環境は、金融緩和政策がその副作用が懸念される中で継続され、またIT企業をはじめ他業態から金融サービスへの参入が相次ぐなど、大きな変革期を迎えています。

こうした経営環境のもとで、当行では第6次中期経営計画「Timely & Speedy」（2017年度から3か年）の最終年度を迎え、メインテーマとして掲げた「コンサルティング機能の発揮～つなげる～」のもと、この2年間で進めてきた変革をベースに確かな成果を残す一年にしたいと考えております。

一昨年、京銀証券株式会社の設立に加えて、昨年は銀行本体で信託業務に参入したことで、当行は「銀行・証券・信託」の各サービスをワンストップで提供できるようになり、総合金融サービス業としての大きな一歩を踏み出しました。また、昨年新設した長浜支店（滋賀県長浜市）は、“事務拠点から相談拠点へ”をコンセプトに、コンサルティング機能を強化した「次世代型店舗」の試金石として位置付けております。多岐にわたる新たな試みをあわせて導入することで、お客さまの利便性を確保しつつ店舗運営の効率化を図ることができました。この「長浜モデル」を、今後さらに完成度を高めつつ既存店にも順次取り入れることで、お客さまの相談ニーズに一段とお応えするとともに生産性向上にもつなげてまいりたいと考えています。

銀行業界が今後ますます変わりゆく中において、環境変化の大きな波を当行が成長するための推進力へと転換させることで、「お客さまの期待に応える京都銀行」としてグループ各社とともに揺るぎない地位を築くとともに、幅広いステークホルダーのみなさまのご期待にもお応えしてまいります。

みなさまにおかれましては、今後とも格別のご支援、ご愛顧を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2019年6月

取締役頭取

土井 伸宏